

■ 新地方公会計制度に基づく財務書類4表

○ 地方公会計改革の要旨

平成19年10月に「新地方公会計制度実務研究会報告書」が公表され、全ての市町村が、平成22年度決算から「地方公会計改革（普通会計及び連結財務書類4表の作成と公表）」に取り組むこととされました。

これを受けて、本村では、平成20年度決算において「報告書」等で示された作成モデルのうち、「総務省方式改定モデル」に従って、普通会計財務書類4表を作成しました。

○ 地方公会計改革の意義

1 現金主義による会計処理の補完

- ① 見えにくいコストの明示
- ② 正確なストック情報の把握
- ③ 将来の住民負担に対する意識の向上

2 公営企業会計・第三セクター等との連結を踏まえた会計の整備に伴う地方公共団体全体としての財政状況の把握

3 コスト分析と政策評価への活用

4 資産・債務改革への対応

○ 財務書類4表

財務書類は、①貸借対照表、②行政コスト計算書、③純資産変動計算書、④資金収支計算書の4表です。

① 貸借対照表

（対策対照表から分かること）

- 将来世代に引き継ぐ資産
- 将来世代の負担となる地方債残高
- 損失補償している公社・三セクの債務

住民サービスを提供するために保有している資産（財産）と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを総括的に表示したものです。

表内の左側の資産合計と右側の負債・純資産合計の額が一致して、左右のバランスがとれていることからバランスシートとも呼ばれています。

② 行政コスト計算書

（行政コスト計算書から分かること）

- 経常的な行政サービスにかかったコスト
- 受益者負担でどれほどコストが賄われたか

4月1日から翌年3月31日の1年間での行政活動のうち、医療費の給付などといった資産の形成に結びつかない行政サービスに係った経費と、その行政サービスの対価として得られた使用料や負担金などの財源を対比させたものです。

（民間企業の「損益計算書」に相当するものです。）

③ 純資産変動計算書

(純資産変動計算書から分かること)

- 資産はどのように変動したのか
- 資産はどのような財源で形成されたのか

① 貸借対照表内の「純資産の部」に計上されている数値が1年間でどのように変動したかを表しているものです。

④ 資金収支計算書

(資金収支計算書から分かること)

- 経常的経費や投資的経費の財源
- 年間での資金の変動要因

歳計現金(資金)の収入・支出の内容を、「経常的収支」、「公共資産整備収支」、「投資・財務的収支」の3つに区分をして表示したものです。